

表 3.1 環境分野（砂漠化防止）関係プロジェクト×の投入と結果に関する実績一覧表

プロジェクト名	緑の推進協力プロジェクト	苗木育成場整備計画 (2次、3次)	沿岸地域植林計画	総合村落林業開発計画	
援助形態	JOCV	無償資金協力	無償資金協力	技術協力プロジェクト	
サイト	ティエス県の3郡 ティエナバ郡 ポート郡 チヴァオウアナ郡 (168村落)	全国15公営苗圃の内9ヶ所(9州) 2次対象地 3次対象地 アン リンゲル ルガ カフリン ンガボウ タンバクンダ マタム ケドグウ ニオロ	ティエス州北部海岸沿い	ダカール、カオラック、ファティック 州の公営苗圃周辺村落	
投入	協力年度 (期間)	フェーズ '86-'92; フェーズ '93-'98	'95-'97 '99-'00	'01-'05	'00/01-'05/01
	プロジェクト 目標:	緑の増進のため、技術指導、普及 活動を通して地域住民、住民組織 への啓蒙、教育を行い、もって農村 等地域住民の生活向上に寄与	地域住民参加の植林事業拡大の ために必要な優良苗木の安定的 生産供給と地域住民への育苗・植 林技術の指導・訓練・普及を実施 するため、老朽化の著しい公営苗 圃の整備・強化を図る。	沿岸・ニヤイ地域において砂 丘固定林の造成を行うことに より、野菜栽培地の保全を図り、 その結果、地域住民の生 活改善に資する。	「地域住民により持続的自然管理 活動が開始され、普及モデルが作 成される」
	プログラムの 目標:	* 苗木の生産技術の確立・支援・セミ ナー方式による植林活動 * 住民苗圃の指導 * アグロフォレストリー園造成と指導 * 野菜・果樹栽培指導 * ビデオ教材の作成 * 改良かまどの普及 * 女性グループの活動支援	* 苗木育成場整備: 5ヶ所 4ヶ所 * 苗木生産: 80万本/年 75万本/年	* 砂丘固定植林:約700ha * 防風柵:688km * 苗圃整備1箇所(苗木生産: 2,295千本)	* 自然・社会経済関連ベースライン データの収集 * 農民ボランティアの研修計画策定 * 農民ボランティアの育成 * 同上活動のモニタリング * 地域資源の導入 * C/Pの監理・調整能力の向上
	人的資源の 投入	フェーズ '86-'92; 専門家:1名 JOCV:23名 フェーズ '93-'98 専門家:1名 JOCV:23名 C/P研修員受け入れ:14名	無し (コンサルタントによる計画・設計・ 施工監理(7名))	無し (コンサルタントによる計画・設 計・施工監理(9名))	・長期専門家:6名 ・短期専門家:4名 ・C/P研修員受け入れ:6名
	資機材投入	灌水施設(ポンプ、パイプ、その他) 苗圃整備資機材、農機具、 車輛、視聴覚教育機材	下記項目への資金 (施設整備、育苗施設、管理施設、 水利施設、資機材、車輛、育苗用 具機材、研修用機材)	下記項目への資金 (苗圃管理施設、育苗資機 材、車輛、種子)	車輛、コンピュータ、教育資機材
	日本側(専 門家・隊員) の活動	* 公営苗圃の整備、技術指導 * 住民への植林、苗圃、野菜、果樹、 アグロフォレストリー、改良かまどに関す る技術指導 * ビデオ教材の作成	* 無し	* 無し	* ベースラインデータ収集 * 研修プログラム策定 * PRODEFIメンバーへの研修
結果	セネガル側 (C/Pなど) の活動	* 住民への植林、苗圃、野菜、果樹、 アグロフォレストリー、改良かまどに関す る技術指導	* 住民への植林普及、指導	* 土壌保全意識向上のための 住民説明会	* ベースラインデータ収集 * 研修プログラム策定 * 農民ボランティアへの研修
	技術移転な どの実施	* 公営苗圃の整備、技術指導 * 住民への植林、苗圃、野菜、果樹、 アグロフォレストリー、改良かまどに関す る技術指導	* 専門家による運営指導 * C/Pへの技術移転(セミナー等)は なし	* 土壌保全意識向上のための 住民説明会 * 地域住民の資金雇用	* PRODEFIメンバーへの研修 * 農民ボランティアへの研修 計 20回
	住民の参 加・活動	* 植林 * 苗圃造成 * 野菜・果樹栽培 * アグロフォレストリー造園 * 改良かまど作成	* 生産した苗木数の約40%は村落 住民植林のため配布 * (関係苗圃の配布記録は入手中)	* 現地植林委員会:2委員会	* 32 住民(女性・男女)グループ
	植林の実施 結果	* 住民の森 約382 Ha * 防風林 約73 Km * アグロフォレストリー園(3 Ha)の造 成	* 2次の5 苗圃での苗木生産量 (1998-2002):計 約9.2百万本 (約 6,000 Haの植林可能) * 3次の4苗圃での苗木生産量 (2000-2002):計 約3.1百万本 (約 2,000 Haの植林可能)	* 現在:468 Ha (フィラオ:355Ha, ユーカリ: 113 Ha) 生存率:約70% * 防風:466 Km * 囲い:46.92 Km	* 約95,000本の植林 101.09 Ha 36.42 Km 生存率:約90%
	住民生活へ の影響	* 普及された技術、活動が住民によ り継続されている一部地域では、 薪の販売、野菜・果樹の生産が行 われている。	* 2次対象苗木育成場 村落住民に森林環境改善のため 苗木の配布(約2,400 Ha増加) * 3次対象苗木育成場 村落住民に森林環境改善のため 苗木の配布(約640 Haの増加)	* 賃金雇用により現金収入が 得られている。	* 供与された製粉機、井戸、苗圃、 多目的施設などの利用により、地 域資源の活用が促進されている。
	総合的結果	* 公営苗圃に投入された資機材は比 較的活用されている。 * 普及活動の対象となった村の一部 では、野菜・果樹栽培が継続され ているが、苗木生産、植林に関し ては、活動が停止している模様であ る。	* 苗木の生産量は、増加したが、植 林活動との関連性が不明確。 * 個別派遣専門家による運営指導と ともに、造林地成績調査が行われ た。一部苗木育成場では、森林局 職員による普及活動により植林が 行われていた。	* 苗圃の整備、植栽工、飛砂防 止対策工、家畜侵入防止柵 工は、計画通り行われている が、砂丘固定、生活改善の効 果は、現段階では不明。	* 投入された施設、機材は利用され ている。 * 研修の効果は、現段階では不明。 しかし、強い関心を持って参加す る住民が、出現してきている。

(× 1996 年度-2000 年度の期間に実施された案件)